



町長室から 工藤 秀一

西日本新聞社が、地域の文化向上や発展に貢献した個人・団体に贈る「西日本文化賞」を、本年度見事に「清和文楽の里協会」が受賞されました。受賞理由は、江戸時代末期から続く人形浄瑠璃を継承・発展させ、地域を挙げた文楽の里づくりに貢献した功績が評価されたものです。

この賞は、今年で75回目を迎え、これまで、詩人の北原白秋や、元ソフトバンクホークス監督の王貞治さんも受賞されている大変栄誉ある賞です。あらためて「清和文楽の里協会」の皆様を始め、清和文楽人形芝居の保存に関わってこられました方々に、心よりお祝いを申し上げます。

これまでも、後継者不足など様々な苦勞がありました。こうした困難を乗り越えられ受け継がれてきたことや、単に珍しいというものではなく、芸術性などが本物であるという評価により、地域文化功労賞や地域伝統芸能大賞など輝かしい賞を受賞されてきました。

近年においても平成26年から2年間、清和文楽の後継者育成として、淡路島にある淡路人形座へ三名を研修に派遣されました。清和小学校においても、4年生から6年生に人形使いや、太夫、三味線を教えることを通して、後継者育成につながる取り組みをされています。

また、4月の熊本地震以降は、多くの団体からキャンセルがあったため、来場者数が激減しましたが、県外出張公演を実施され、懸命に上演活動を続けられた結果、徐々にではありますが入り込み客も回復してきており、その取り組み姿勢には頭が下がります。

今回の「西日本文化賞」の受賞は、清和文楽の里協会の皆様にとつて熊本県を代表する農村文化「清和文楽」を継承する自信と誇りをさらに高められ、今後の伝承活動の大きな励みになられたことと確信いたします。これからも清和文楽邑からその魅力を全国に発信し地域の活性化に繋げて戴けることを願っております。

間伐体験・路網整備実習 ～緑科学科2年～

11月4日(金) 緑科学科2年生が、鍛冶床演習林で間伐体験・路網整備実習を行いました。上益城地区林業研究グループ連絡協議会の方々に技術指導をしていただきました。間伐実習では、選木・伐倒・玉切を行い林内作業車で搬出・運搬を行いました。路網整備実習では、バックホーの操作を行いました。



○実習の感想

緑科学科2年 坂口君(砥用中出身)

今回、間伐・路網整備実習に参加して、まず間伐の際に受け口を作り、木を狙った所に伐倒することが難しかったです。路網整備では、バックホーを操作し、地面を掘り返したりして操作が難しかったですけど、とても楽しかったです。この経験をこれからの演習林実習に活かして行きたいです。

高性能林業機械操作研修 ～緑科学科1年～

11月9日(水) 緑科学科1年生が、高性能林業機械の操作研修を行いました。高性能林業機械は、プロセッサ(玉切・集材)フォワーダー(集材された木材を運搬)林内作業車(集材・運搬)の操作研修を行いました。



○実習の感想

緑科学科1年 田中君(矢部中出身)

私は、プロセッサの値段を聞いてすごく高い機械でびっくりしました。そして、操縦をしてみるととても迫力があり、操作が難しく、操作に慣れるまでにとても時間がかかりました。慣れてくると上手に操作できるようになり、丸太を綺麗に並べて集材することができました。滅多に体験することができないことなので、とても良い経験ができました。

親子クッキーづくり講座 ～食農科学科2年～

10月28日(金) 食農科学科2年の食農交流活動の一環として、山都町子育て支援センターの協力で、本校で栽培したブルーベリーを活用した「クッキー作り講座」を行いました。講座をとおして食育活動を推進するとともに矢部高校を知っていただく機会になりました。生徒にとっては、日頃の学習の深化を図るとともに、地域の方々との交流をとおしてコミュニケーション能力の向上を図る機会になりました。



矢部高校文化祭

11月11日(金)12日(土)、矢部高校文化祭『繋 ～心をついに感謝を胸に～』テーマのもと様々な企画を行いました。1日目は、弁論大会や団体発表、クラスPR、2日目は、農産物販売、食品バザー、合唱コンクール等を行いました。多くの皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。今年の文化祭も全生徒が一つになり、素晴らしい文化祭を作り上げることができました。



○文化祭を終えて

生徒会副会長 普通科2年 大林さん(矢部中出身)

今回の文化祭はたくさんの新しい事に挑戦しました。中でも心に残ったのは、クラスPRです。今年の大地震で企画されていた遠足が中止されたため、他クラスのことを知るために企画されました。クラスPRは、自分たちで案を出し合い作ることができ、とても楽しかったです。

文化祭に、たくさんの方のご来場していただき、誠にありがとうございました。これからも矢部高校をよろしく願います。

矢部阿蘇公園線未供用区間の早期着工へ

11月22日、工藤町長、南阿蘇村の長野村長、両町村議会議員ほか一行とともに熊本県庁を訪れ、「主要地方道矢部阿蘇公園線未供用区間の早期着工」に対する要望書を提出し、意見交換を行いました。

矢部阿蘇公園線は現在、主要地方道に指定されており、熊本県の積極的な改良事業により生活関連区間の道路整備については、残り数年での完了が見込まれていますが、一部の未供用区間があり、整備完了には至っていません。

本町としても熊本地震により近隣市町村の幹線道路が被災を受け、支援団体が迂回ルートでの現地入りを余儀なくされたことや地域社会の生活や観光などに様々な影響が及びました。

大規模な幹線道路のみに頼るのではなく、複数の主要道路による交通網の整備を行うことで、今回の



長野村長(中央)、松永道路都市局長(右)



意見交換会の様子

ような災害時の支援に大きな役割を担う自衛隊の支援部隊が大矢野原演習場を拠点とし、県央に位置する本町からの県北・県南への交通網の確保が望まれることなどから要望されました。